

ノコちゃん

●小山乃里子の華麗なるKOBE見てある記

セーラー服とコンピューター

塩原女子高等学校



LL(Learning Laboratory)教室。生徒1人1人の能力に応じた個別化学習のため“落ちこぼれ”状況を生まない。

ノコちゃん
懐かしの学生生活に
逆戻りする

神戸は坂道の街、とはいえ、こんなに、地形をうまく利用した、別の見方をすれば、山すそにへばりついたような学校も珍らしい。大きな平面がとれないから、あちこちに、何号舎何号舎と別れていて、それぞれから、ブルーのセーラー服が降りてくる。

張りのある、ピカツと光った素肌がそこそこに満ちている。私は、小学校から大学までずっと共学だった。

いつもむさい男共がそばにいた。高校時代はバレー部だったから、おしゃれとは程遠い、汗と油のおいがしみ込んでいた。

正門からの、神戸港のながめが素晴らしく、しばしたずむ。あつそつだ、先生が待ってらっしゃる。

▶個別化学習を早くも実践中
しし用のテーブルライブラリー▶





◀塩原 正副校長。教師や生徒の信頼も厚い

塩原敬舟校長と。道具を使つての教育哲学▶



◀M.L教室。電子オルガンで学ぶ



この、塩原女子高に何故やって来たかといえば、これはこの学校に、情報処理科なるものがあり、コンピュータを使った授業、というか、みんなが自由にコンピュータを操作出来る、と聞いたからで、はつきり言って、さつきから私の足どりを重くしているのは、私が、まるつきりそのデのものに弱いからである。岩切先生が出迎えて下さった。あの、生徒達とても緊張してます、何取材されんの、って、食事ものど通らん言ってます。ハハ……これはしめた。互角に勝負出来るかもしれない。応接室で校長先生にお会いした。「ちょっと待って下さい。」と隣室に消えたかと思うと、お盆の上にフラスコやらコップやら、ガチガチ言わせて再登場。

「あのね、このフラスコにコルクを入れます。無理に出そうとしたらコルクはバラバラ、このハンカチをこう入れて、コルクを包んで、こうやって出すと、ホラッ、出て来たでしょう、ハイッ、拍手!!」いやはや驚いた。

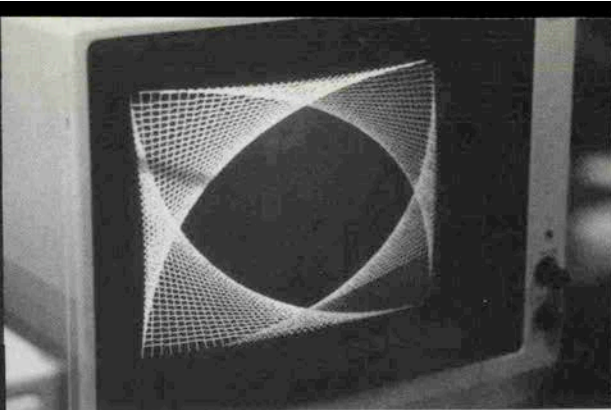
「水のごぼれくあい、これは波調の問題、箸を三本使って、これは水平思考、教育の原点は、その娘に対する愛、能力に合わせた波調、色んな角度から物事を見ようとする姿勢……おわかりですか、それじゃまあ、ごゆっくり。」一べんに



同校OBの岩切浩子先生



将来の先生(?)です



(上) 情報処理科の教室。女子生徒の操作で鮮やかな図面がディスプレイに。(下) 女子高生にまじってマイコンを学ぶ(?)ノコさん



(上) 昔の癖(?)でついにカンニング
(下) 同校は山の中腹だけに環境は抜群

敬舟さんのファンになった。
それじゃあ御案内しましょう、
と副校長の二正さん。
いったん正門を出て、道をはさんだ校舎へ。まずはコンピュータ教室。昭和四十六年から、この情報処理科が設置されたそうで、岩切先生はその二期生、最初二十八人でスタートしたそうだが、次の年は七十人になっていたそうなおそろのおそろのぞき込む。へえ、英文タイプとよく似てるねえ。あらっ、カチャカチャコンコンとにぎやかな音と共に、モナリザの顔が現われた。

楽しそうにキーを打っている彼女達の横顔。なるほど、さっき聞いたこの学校のモットー「わかる授業、楽しい授業」ってこういうことなんだな。保育実習室には、オルガンとエレクトーンがずらり。みんなイヤホンをつけ、先生の頭上の五線譜を見上げながら弾いている。隣はLL教室。最初のLは、ランゲージじゃなく、ラーニングということ。英語を話す事よりも、いかに楽しく学ぶか、という教室とのことで、机に力セットをセットして、能力に合わせて学習するようになっている。隣りから教材がまわって来たので、久しぶりの英語のお勉強。あつというまの見て歩きたっけと、面白かった。世の中には私の出来ない事、知らない事が山程ある。

洒落て、街へ



PARIENNE
(株式会社 アン)

ジャケット ¥35,000
パンツ ¥24,800

お客さま／中尾みどりさん
トレンディなファッションも似
合いのお嬢さん。夏休みは北欧へ
旅してきました。

撮影協力／A COLLECTION



太陽堂

- 本店
神戸市灘区水道筋3-25 TEL 861-3515
- 明石店
明石ダイエーショッパーズプラザ1F

私の住まい考②

ドクトル佐本は シンガー・ソング・ドクター 自宅の庭にはシアターも。



(写真/右上) 歯医者さんの待ち合いとは思えない。一人でも多くの患者を診察しようという先生のあたたかさがここにも。(写真/上) 歌をうたいながら、子供の緊張をときほぐしていく。

き叫ぶ親はもちろんいないうえ、子供たちも思い思いオモチャで遊んだり、母親に甘えている。待合室が殺風景でなく、オモチャがそこかしこにある二キニギしさが子供に安らぎを与えるようだ。

ところで診察室。食堂でお子様ランチを食べるのは大分ワケが違うから、グスる子供も出てくる。

そこへ佐本先生が、漫画のエプロンをして子供にスキャンシップ。

「ホラホラ、ボク、男の子だらう」「ホラホラ、ワタシ、女の子だらう」「全然痛くないから……」

診察にとりかかると期せずして、童謡がスピーカーから流れてくる。すると先生と一緒に歌い出す。歌いながら治療する。これは感動的デス。大の男が、カラオケでなく、治療をしながら、子供に歌ってあげる。それもミツキーマウスなどのエプロンをして。コレは本当に感動的デス。

「この先生は友達なんだ。子供はそう思うに違いない。病院は三宮に開業しているが、遠方の患者さんの方が多く、遠くは沖縄から治療に来る親子連れもいる。

「最近感謝の念が少なくなくてね」と先生はいう。特に地元の人ほど医者との関係がビジネスライクに考える人が多い」と怒りとも



「私は形式的なことがきらいだね」という先生の言葉通り洋風の庭につり鐘も

寂しさともつかぬ口ぶり。ビジネスライクに考えるのは患者である子供ではない。若い母親のこと。歯が痛い、ではなくて耳が痛い話デス。

佐本先生が小児科の分野に足を踏み入れたのは12年前。日本で二番目。「子供の歯を治療する正義感」に燃えて

「脱」歯科医となった。「昭和40年のはじめの頃は子供の歯科治療は成人歯科の陰であり、不毛の地だったんです。

小児歯科の待合室——と聞けば、予感するのは泣き声と喧嘩の阿鼻叫喚の修羅場。

さらに診察室——とくれば耳を手でふさぎ、騒音地獄の光景に「私は子供たちが嫌いだノ」と叫び、逃げださずにはられない気がしていた。

あにはからんや。

親子連れで満員の待合室はこのほか静か。恐怖で泣



▲「夏は暑すぎて困ります。でも冬は暖かいので、子供に占領されてます」屋根裏を改良した展望室
 ▲茶室の形式は全く無視されているという。外人さんが来られたときは喜ばれます。ここの裏には、北野でただ一つの自然の竹林があります。』
 今日もバントマイムの1人芝居がありました。大ホールでは味わえない、役者との一体感があります。▼



「こんな劇場を作るとは一言もいってくれませんでした。新聞を見ているだけでわかったんです」とは奥さんの幸子さんの弁。私は、自分のやりたいようにやります」と佐本先生、▶

あなただけの暮らしを大切に

「わが家も、こんなに楽しく暮らしているんですよ」こんな声を耳にすると、何だか嬉しい気持ちになります。ご主人の笑顔、ご家族の明るい笑い声、だらんひとときが、目に浮かびます。

神戸市ポートアイランド総合住宅展示場は、個性ある「住まい方」「暮らし方」をみつめながら、住まいづくりを提案し続けます。

神戸市
ポートアイランド
総合住宅展示場

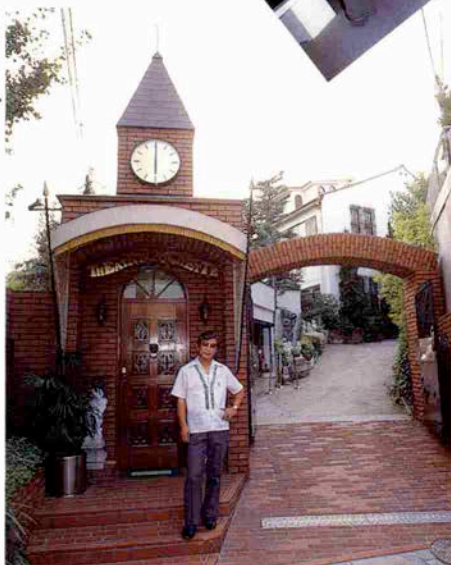
主催 神戸市 共催 神戸新聞社

神戸市中央区港島中町5丁目 ☎078(302)6592

開場時間 午前10時～午後6時

ポートライナー市民広場駅下車西隣

専用大駐車場完備(三宮から車で6分)



ました。文字通り寝食を忘れての医療奮闘を続けてきたのだ。
 ダンディでズボラ、大胆で繊細、梓にはめられることを嫌う先生は、家庭では二男一女の父である。子供の教



▲親子5人+犬が三匹。みんなのびのび暮らしています。

子供のムシ歯は洪水のように溢れているのに手をうつとはしない。唯一、東京で孤軍奮闘されていたのが落合靖一先生。私なりに義憤に燃えて、先生の門を叩き、この道を歩みはじめたのです。さらに「夜間のアルバイト先で、障害児の医療が見放されていることを知り、私自身生活が苦しかったにもかかわらず、障害児の施設に無料の歯科診療所の設置をし

育方針は「命令がいやだから、自由にさせている。抑圧のない環境づくりをしている」とのこと。家でまで「治療」する気のない放任主義である。
 奥様の幸子さんとの結婚は昭和42年2月11日。文字通りの家庭建国記念日。出会い、インターン時代の先生が、まだ学生の幸子さんの短大に検診に行ったことから「他の学生は歯ばかり見ていたが、彼女のときは顔ばかり見ていた」との先生の弁を奥さんに伝えると、明るく笑いこける。自由で明るいファミリーのようだ。
 庭には、多目的劇場「シアター・ボシエット」100名収容がある。ホールは庭の地下にあるところがなんとユニーク。
 「作った目的は、人との出会いが好きだから。無感動の時代に感謝の仕掛けをしたいと思った」との言葉はさきほどの感謝の念を忘れた若い母親たちへのアピールと一脈通じるものがある。
 医者でもあり、館長でもある佐本先生は最近、ある人に同館の舞台に役者として出演しないかと誘われるそう。どうもオッチョコチョイのムシが、またぞろ先生をその気にさせかけている。
 役者になるのならぜひ先生に演ってもらいたい役がある。山本周五郎原作の「赤ひげ」である。

ツイードをソフトに着こなして

入念な仕立てのダブルブレザーに、シンプルなスカート。優しいシルクのブラウスを組み合わせ、ツイードに女らしい表情が加わりました。

(ジャケット ¥39,000 スカート ¥19,000 ブラウス ¥22,000 ベルト ¥5,800
以上メゾン・ド・トワール) 着る人/鮫島美重さん 撮影協力/ブラスリー・ベルナール

Maison

- ブティック シンワ(センター街)
TEL (331) 3098、(321) 0200
- 世界の服地 シンワ(さんちかタウン)
TEL (321) 5254
- コットンシンワ(須磨パティオ)
TEL (791) 0002



MAISON DE TOILES



アンビエントは——

私たちのファッションハート

神戸北野より心をこめて

メッセージしたいと

思います

My fashion heat

ambiente

01 02

AM11:00~PM8:00

Corner House 1F. 2-1-1, Yamamoto-dori, Chuo-ku, Kobe-shi Phone:078/242-5338

風と光の、私空間。フリック・コート アネックス

完ぺきなプライバシーと独創の4面採光。鋭い美意識と感性を持つ都会派のためのモノトーン空間。芦屋に時代を先どりした住宅13邸と4つのショップが今秋完成。



パリ・ビエンナーレ招待出展コンビが放つ〈ASHIYA LIFE〉第二弾

特別予約販売中

〈お問い合わせ〉ガイドルーム ☎(0797)22-0001

〈事業主〉



プロメテウス株式会社

芦屋アトリエ 〒659 芦屋市春日町1番15号 ☎(0797)34-1000

〈設計・監理〉 大杉喜彦建築総合研究所
 〈施工〉 大工建設株式会社



Coffee Break



★近畿システムハウス協会
長に就任の吉岡昭一郎氏

システムハウスとはマイコンの周辺機器を製造したり、利用技術を駆使する業界のこと。近畿システムハウス協会が発足して五年、ベンチャービジネス関連の約百社が同協会に所属している。このほど同協会の会長に就任した吉岡昭一郎氏はアポロ電機製作所（東灘区）の社長さんでもある。



吉岡昭一郎
「業界の国際化と近畿ブロックの充実化、この2本を柱に進めていきたい。国際化に対応するため、国際委員会を設置した。佐野博持氏（全国中小貿易業兵庫連盟理事長）を委員長に、海外進出やカン

トリーリスクの研究をしていきたい」と積極的。ベンチャー業界期待の二代目協会長誕生である。

★蟬時雨のなかの

天上寺上棟式

「皆さまのお力添えに対し万感の思いを込めて頭をたれさせていただきます」

8月7日、摩耶山天上寺の金堂上棟式の謝辞で、同寺の伊藤浄厳住主はいかにも感無量の様子。昭和五十一年一月に焼失してから丸八年、復興も上棟式にまでこぎつけたわけだ。



伊藤 浄厳
「焼け跡に亡然自失した日のことを思うと、

今日を迎えたのは、まるで夢のようです。今後とも昭和の名建築としてこの寺を守り、人身の救済、人々の平穏に役立って行きます」
来年5月10日には晴れて落慶式が行われる予定だ。

★アメリカのライフスタイルを、いち早く神戸に



中田 幸子
トの中田幸子さんが開

リカの生活情報誌の項目を残らずインデックス化して伝えます。質の良い情報を求める企業に、ニーズに応

じて記事のタイトルを直訳するのではなく、記事の内容の全容をとらえ、数行で概要を伝えられるように工夫しています」と、目下、PRに懸命だ。

アダマント／電話06-773-0561

★気鋭の作家、秋吉 好の処女作品集が今秋刊行

「この15年間の自分の足跡を振り返る一つの機会ですね」と話すのは、10月に初作品集（小説）を近代文芸社から出版する秋吉 好さん（東灘区在住）。小誌主催の文化賞「ブルーメール賞」文学部門の昭和52年度受賞者であり、過去において「福原」を連載していた。

今回の作品集には表題作の「恋死（こひじ）」の他、先の「福原」、「時の別れ」の三篇が収録される。



秋吉 好
録される。今秋40歳になる秋吉

さんだが、「20代の作品も入っています。だから今とは考え方も違い、感覚のズレを感じたりするのですが、その時代の精いっぱいの仕事なので、入れました」と、自身にとつての記念碑的な作品集だけに思いもひとしおのようだ。

また作品集の装幀は、源

氏物語などの絵で知られる岡田嘉夫さん。「神戸から新しい作家を送り出すお手伝いが出るのなら」と、大いに力が入る。

この秋、読書界に一つの波紋が投げられるか、期待したいところだ。

★個性の異なる仲良し

「のりこ&ひろこ」二人展りんごの絵ばかりを描き続けているというのが、水野のりこさん。一方、女の心象風景を赤を用いて描き続けているのが、谷ひろこさん。この2人のユニークな



水野のりこ
絵画展が、7月10日、画廊



谷 ひろこ
で開かれた「ささやか

を迎えました。嬉しかったのは、京友禅の染めの専門家が、私たち2人の絵を見て、ひと言 神戸らしいな、といってくださったことです」

ふだんはOL、主婦のたたわら、合い間をぬって絵を描き続けたいという二人で、対照的な絵柄とは反対に、爽やかな絵画への情熱が快い。2年後の二人展が楽しみです。

動物園飼育日記 —〈226〉— 亀井一成 〈王子動物園学芸員〉
写真撮影も筆者

卵の緊急避難！



昭和59年7月3日午後9時30分、暗闇の中本年度第39頭めのアカウミガメが日和佐町大浜海岸に上陸。産卵を終え海に帰っていった。(8月5日現在107頭)

翌朝、夜間に記録したその産卵場所の確認が行われたところ、波うちぎわから僅か10m前後だった。

「これでは高波に流されてしまう」

「亀井さん、早速、巢の移動をしますので暫くお待ち下さい」日和佐町、観光課、ウミガメ保護担当主査、中東覚氏は移動に必要な機材を持って古川氏と二人で海岸に戻ってこられた。

〔130個の卵を避難させる〕

“緊急避難”

一、大浜海岸のウミガメ及びその卵

(文化財保護法第80条の1により)

一、昭和59年7月4日(水)

一、高波により流失の恐れあり、巢を20m移動

一、日和佐町、中東、古川。

さて、小さな黒板に以上のような項目を記して撮影後作業をはじめた。

一夜明けた砂浜には、重たい甲らを運んだ母ガメの足あとが、往復、波うちぎわに、はっきりと残っていた。

いくら母ガメが砂を盛りあげ、卵を隠していても、人間にはすぐ分ってしまう。

前後の両足で水をかくように後ろへ砂をかき寄せ卵を隠したのであろうが、砂の上での足跡は母ガメの卵を守ろうとする愛情の深さをよけいくつきりとさせていた。

「これが後ろ足の跡ですから」

といいながら長い鉄棒を砂浜にグサリとさしこみ、卵の有無の確認が先ずはじまった。神戸市須磨浦公園附近の海岸でみる砂とは粒の大きさがずつと小さく、よく揃っている。鉄棒の先で卵を見つけることも難かしいもので結局は、素手で砂をかきよせながら、まるで宝探しの数分がすぎた。

「あった、ありました!」

〔産卵24時間後には発生がはじまる卵〕

砂を掘り、探し当てた深さは約60cmあった。母ガメは後ろ足で直径約20cm位の穴を掘るが、その深さは後ろ足の長さに比例する。したがって甲らの大きいカメほど足も長いので深い穴に卵を産んでいるわけだ。

さて、卵を確認しても産卵後の時間経過が大変重要なチェックポイントといわれている。

砂浜の地熱が24時間以上経過すると卵黄の胚の発生を進めているので、卵の上下位置を不用意に動かせるとふ化率が悪くなるというのである。そこで、産卵後少しでも早い時間に移動させる方がよいということで、朝早くから卵の移動作業をはじめた。

一つ一つの卵を丁寧にとり、バケツに入れて運ぶわけだが、卵の数120個、山盛り一杯になり、たいへんな重さだった。

「ひとつやってみませんか!」

やってみたくてたまらなかった私は、もはや最後まで助手を努めたこと言うまでもない。

〔120個の卵、重さ合計4.5kg〕

ピンポン玉より少し大きめの卵は、重なりあって穴の中に生み落とされたものだから、かなりへこんだ卵があった。鳥の卵とちがい爬虫類であるウミガメの卵はニシキヘビやワニのように産卵直後はやわらかいので、へこみができることを知った。

さて、卵の直径は約3.7cm、重さは37g、一度の産卵に平均120個生むとして約4.5kg。山盛り一杯の卵が、これほど重いと驚いてしまった。また、一個の卵も割ってはいけないという緊張感で、深さ60cmの穴の中の卵を手で拾いあげる作業に、意外な程時間を要していた。

海岸から産卵場所までの距離の測定。産卵穴の直径と深さをもう一度計ったのち、20m海岸から陸に向けてあげた所に母ガメが掘った同じ大きさの穴を人手で掘った。つまり安全な所に人工巢穴をつくったわけだ。

一つ、二つ、三つと数えながら、ゆっくりとバケツの



写真右／産卵穴に産み落とされた卵を安全な場所に移動。

中／20m移動させるために厳重な測定を行っている。

左／同行した飼育員の喜多英主さんとウミガメに乗って竜宮城へ（？）

上の方の卵から巣穴に埋めはじめたが、きれいに並べるよりも幾つも卵が重なっている方が一層ふ化率が良くなるという一説もあるので、今回は産卵後の時間がまだ早い。そこで無造作に卵を重ねて置いていった。

〔3度通い4晩めに3頭の母ガメを見るノ〕

さて、このように今回は初めて卵の移動という貴重な作業を見ることができたが、私は一向に満足できない二晩めの夜を過ごした。残念ながら、この母ガメ以後、プツリと切られたように一昼夜カメラの姿を見ることができなかったのである。

神戸から日和佐町までどう見積もっても車で六時間かかる。第一夜は到着10時半だったことで産卵を見学することができなかった。そのカメラが波うちぎわに産んだため緊急避難作業を行なったのだ。

その日は、その一頭だけの上陸だったので、監視員の方々も、翌日私にとっては二日めの夜に親ガメの上陸はきつとある。しかも一頭上陸の翌日はたいていが多く上ると教えて下さった。それを信じた私は近くの国民宿舎ウミガメ荘にも戻らず徹夜の観察を続けたが、結局0頭の記録日となってしまった。

「ほら上らんの無理ない。沖で漁の網張ってたよ」

このひと言で私は、とうとう産卵経過を全く取材できないまま、帰神することにしてしまった。

その帰る車中、もしあの人工的に移動させた卵が砂の中で順調に発育したとすれば、9月初旬の頃、あの子ガメたちの誕生が見られるかも知れない。

「親ガメは波の荒い頃と静かな頃を知っている」

「台風シーズンにふ化することになる卵は陸地の奥深く生んでいる。」

「反対に台風までにふ化する卵は海岸に近い所に卵を生みよるです……」

私は野生の中にこのすばらしい生きる知恵があることを監視員の方々から聞き、思わず感動をしてしまった。

「子ガメ、生まれて来いよ——」

Come back to KOBE

また帰る日を願って
あなたの青春を
はこびます



神戸発全国便

小さな引越受付中

24時間営業 / 年中無休

【梱包便】電化製品、家具類、エレクトーン、自転車等
美術品、骨董品（どんなワレ物でも御相談に
応じます。但し地域限定）

ユーミノル サービス

（〒658）神戸市東灘区住吉南町1丁目10-1

本社 ☎ (078) 822-1700 (代)

芦屋営業所 ☎ (0797) 23-6710

こんにちは赤ちゃん



吉田 愛菜ちゃん / 大阪市東成区

完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大槻町1番18号

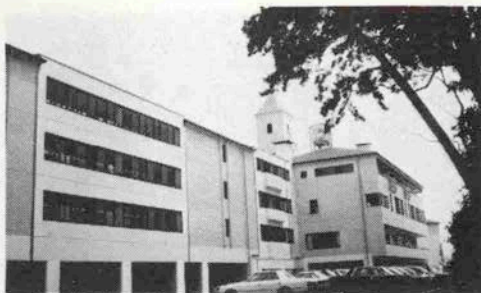
芦屋保健所東隣

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

高年者専用マンションとしてオープン サン舞子マンション

橋本 明〔社団法人「家庭養護促進協会」事務局長〕

舞子ビラのすぐ東隣にわが国では初めてという公営の高齢者専用マンションがオープンしたのが今年の五月。神戸市の外部団体である(財)こうべ市民福祉振興協会が運営をしている。開設以来あちこちから見学者が絶えないが、私も梅雨があけた七月下旬にこの「サン舞子マンション」を訪ねてみた。風見鶏のついた緑の三角屋根が



緑の塔と高い屋根、白い外壁が美しいサン舞子マンション

まず目に入る。各棟の赤い屋根と白い壁が美しいシャレた外観だ。自動ドアが開いて本館一階に入るとゆつたりとしたひろいロビーの窓の外に明石海峡と美しい淡路島の島影がとびこんでくる。

まず館内を案内していただき、入居者の一人である岡本三郎(79)・しげの(70)さん夫妻の部屋でこのマンションでの二カ月間の住みこころをうかがった。

「今のところ大変満足していますよ」が第一声だった。妻のしげのさんは外出中で、岡本さんは教養部という同好会の一つの世話役をしており、その活動のための原稿

を書いていた。入居者で、俳句、茶道、華道、習字、手芸、ゲートボール、フォークダンスなど文化やスポーツなど二十ほどの同好会がつくられており、岡本さんが会長をひきうけている教養部というのは、人々の心のやすらぎを考えるクラブだそうで、図書室の整備や健康づくりのために毎日の散歩をすすめたりしているという。岡本さんはこのマンションに入居するまでは淡路に二十年程住んでいたそうだが、子どもがいなくて年をとってくと肉親の近くに住む方がよいと考え、たまたま夫人の妹が垂水区の多聞台に住んでいたののでここへの入居を決めたという。日課は、朝五時に起きて散歩、掃除、朝食と夕食は自室でつくって食べ、昼食だけ食堂でとる。毎日二時間は本を読み、風呂に入ってから十時には床につく。部屋は三階なので窓からは淡路島がのぞめる。「今は何もいうことはありません。ただ将来、もし病氣などで寝たきりの状態になってしまったらどうなるか、それがちよつと気にはなりますけどね」と岡本さんは笑った。一階のフロントを見せてもらおうと、「生活リズム防災システム」と表示された機械が据えられており、各部屋のナースコールや冷暖房、照明、警報装置などが一目でわかり、コントロールができるようになっていて。二十四時間体制で入居者の生活管理、安全管理ができるわけだが、看護婦も常駐し、医者も週に二回は来ているので健康面での管理もいきとどく。

このほか、神戸市婦人団体協議会の会員によるボランティアサービスがある。これは法律の専門相談、通院補助、外来付添、食事補助、掃除、洗濯、買物、排泄介助、手続代行などで、いずれも二〇〇円～一〇〇〇円ほどの有料サービス。だが、今のところ掃除の依頼ぐらいいはかはあまりない。

二階の食堂で昼食をこちそうになった。自分の好きなものをもって食べるカフェテリア式で、お年寄り向きのメニューと味付けになっているが味はよかった。西隣の舞子ビラのお客や周辺の地域の人たちにも開放されており、時々利用されているようだ。

ところで入居者の数は私が訪れた七月下旬で九十三人。入居室数は七十四室。部屋数は一二〇室あるからまだ四十五室程の空き部屋がある。入居者は男性三十六人、女性五十七人で女性がかなり多く、しかも一人暮らしの女性の入居が多い。入居資格は満六十歳以上。二人で入居の場合はどちらか一方が六十歳以上なら他は五十歳台でもいい。入居時に健康で独立した生活ができること。費用の負担ができること、など。

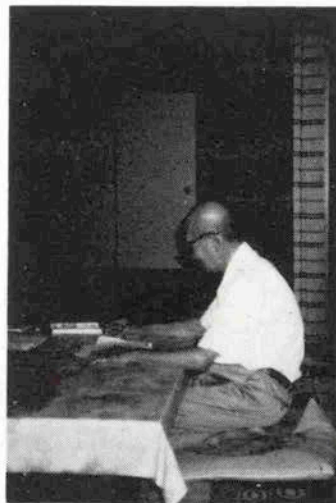
居室は洋室・和室・台所・風呂・トイレなどの完備した二Kで、部屋の広さなどによってABCと三つのタイプがある。



(写真/上) 七日の七夕まつりを楽しむ入居者たち
(同/下) 2階の食堂、外部の人たちも利用できる

入居金は一人入居の場合、約一千万円～千三百万円。二人入居の場合、約千四百万円～千九百万円。管理費が一人の場合月額四万六千円、二人の場合は六万九千円で他に光熱費や医療費、食堂での食事代などは自己負担。また、このマンションは分譲ではないので入居者に所有権はなく、退去の時に居住期間によって入居金は返還される。分譲にすると将来もっと年齢の若い人に譲渡されたりしてこのマンションの目的が果たせなくなってしまうからだ。

国鉄舞子駅から徒歩十数分、山陽の霞が丘駅からは五分と交通の便は大変よく、仕事をもっている人には通勤にも便利。



自分の部屋でくつろぐ岡本さん

当初の計画では「高年マンション」という名称を考えていたが入居希望者からクレームがついて「高年」をはずした。

老人福祉法上の有料老人ホームの一つではあるが、従来の老人ホームのイメージとはかなり異なる印象をうけたし、入居者自身にもそんな意識はあまりないのではなからうか。これから高齢化がすすんでいく社会では老人が老後の生活を選択できる場がもっと多くなってくるだろうし、このような高齢者専用のマンションも増えてくるだろう。

所在地

サン舞子マンション

神戸市垂水区五色山七丁目十二の三八
電話 078(709)0880